



株式会社LTTバイオフーマ
第10期事業報告書
[2011.4.1 - 2012.3.31]

Life Science & Transfer Technology

チャレンジ
未来が変わる。
日本が変わる。 25

The logo for the 25th anniversary features the number "25" in a large, stylized font. The "2" is green and the "5" is blue with a globe-like pattern. To the left of the "25" is the text "チャレンジ" (Challenge) in green, and below it, "未来が変わる。" (The future will change.) and "日本が変わる。" (Japan will change.) in black.

日本発、世界に冠たるバイオベンチャーでありたい。

- 画期的な新薬・医療技術の開発で人類の健康と福祉に貢献する
- 日本の生命科学技術および産業の活性化に寄与する
- 常に時代の最先端を目指す

トップメッセージ



株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。一方、当社株式が昨年8月9日付で上場廃止となり、大変なご心配とご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

お陰様で、当社の中核である創薬事業の研究開発は順調に推移しております。特に、PC-SOD吸入製剤の特発性肺線維症治療薬としての開発に関しましては、第二相臨床試験の準備もほぼ整い、先ず7月頃に日本で開始し、その後、韓国での開始が予定されております。

また、我々が考案した新しい医薬品開発戦略であるドラッグリプロファイリング研究に関しましては、この一年間で多くの特許を出願しました。特に、大手製薬企業がこの研究戦略の重要性を認識し始めていますので、今後共同での医薬品開発が期待されます。今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長 水島 徹



株主の皆様には、日頃よりひとかたならぬご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

当期の連結売上高は、前期末にEIP事業の営業を停止したことから前期比40.0%減少の61百万円となりました。また、PC-SOD(吸入製剤)の研究開発費など販売費及び一般管理費を519百万円計上したため営業損益は458百万円の損失となりました。しかし、公的助成金や配当金収入がありましたので当期純損益は66百万円の損失に止まりました。

研究開発状況につきましては、現在注力しておりますPC-SOD(吸入製剤)のフェーズⅡ試験開始が若干遅延しておりますが、次期上半期中には開始出来る見込みであります。また、パイプライン充実につきましては、ドラッグ・リプロファイリングを中心に今後も積極的に推進してまいります。

なお、当社は昨年8月に上場廃止となり株主の皆様にご迷惑をおかけいたしました。今後は経営資源を創薬事業に集中させ新薬開発を継続させてまいります。子会社株式会社マシンパーツ販売を清算しEIP事業から完全撤退するとともに、会社の規模や実態に合った施策として減資を行い人員体制や組織の見直しなども行ってまいりました。

当社は株主の皆様のご期待に応えるべく一層の努力をしておりますので、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

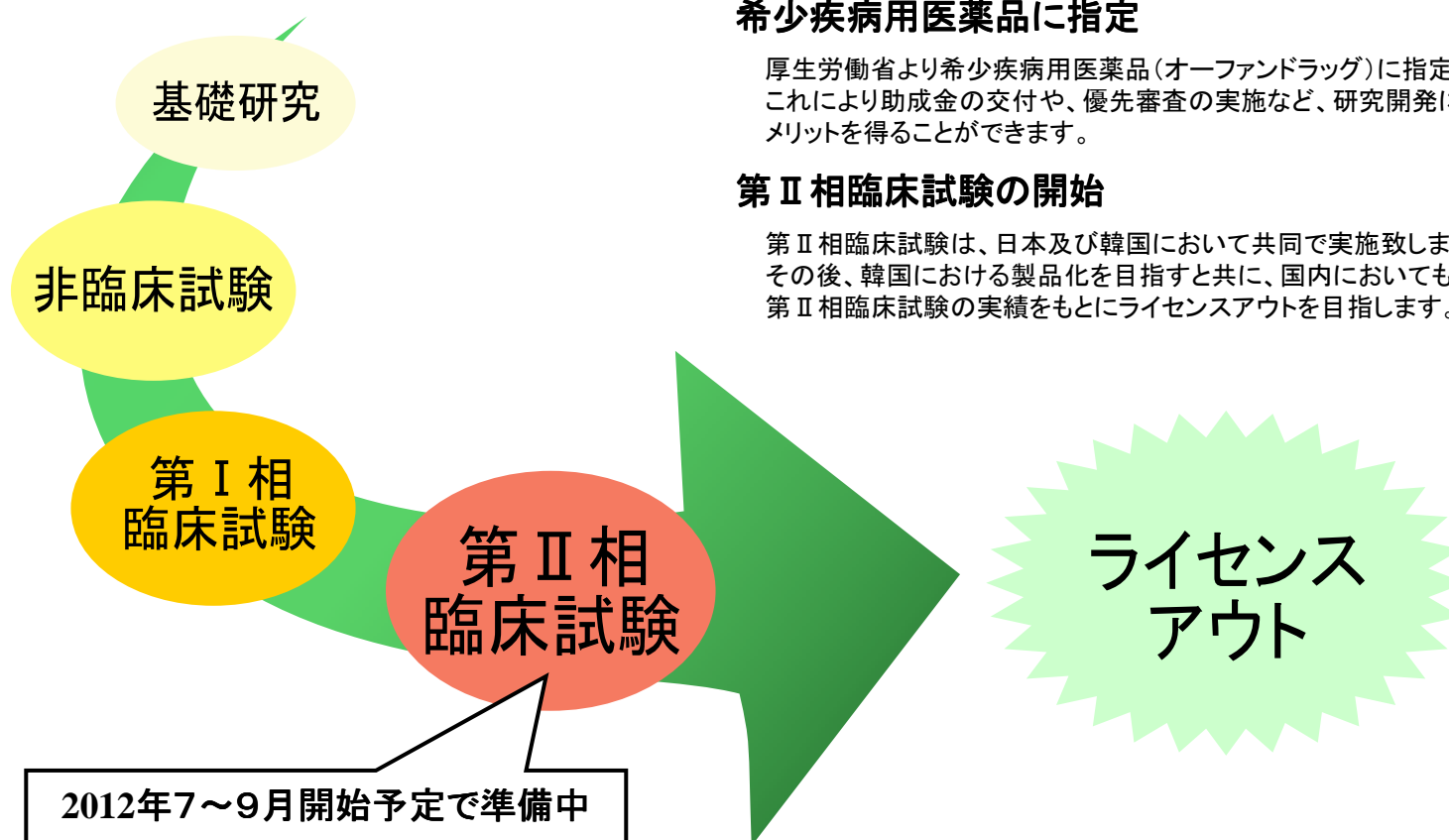
代表取締役社長 大塚 秋夫

事業概況

PC-SOD（吸入製剤）の研究開発

対象疾患 特発性肺線維症

「特発性＝原因不明」。診断後、改善することなく悪化の一途を辿り、5年生存率は17%程度という重篤な肺疾患で、現在有効な治療手段が確立されていない難病です。当初開発を進めていた注射剤から、在宅で長期投与が可能となる吸入製剤へ開発シフトし画期的な難病治療薬として期待を集めております。



希少疾病用医薬品に指定

厚生労働省より希少疾病用医薬品(オーファンドラッグ)に指定されました。これにより助成金の交付や、優先審査の実施など、研究開発に関する様々なメリットを得ることができます。

第Ⅱ相臨床試験の開始

第Ⅱ相臨床試験は、日本及び韓国において共同で実施致します。その後、韓国における製品化を目指すと共に、国内においても第Ⅱ相臨床試験の実績をもとにライセンスアウトを目指します。

事業概況

当社のパイプラインの状況

パイプライン	対象疾患	開発状況
PC-SOD(吸入製剤)	特発性肺線維症	第Ⅱ相臨床試験開始予定
PC-SOD(注射剤)	特発性肺線維症 潰瘍性大腸炎	第Ⅱ相臨床試験終了 北京泰徳製薬へライセンス済
ステルス型ナノ粒子 PGE1製剤 (LT-0101)	慢性動脈硬化 間歇性跛行 脊柱管狭窄症等	基礎研究
ステルス型ナノ粒子	秘密保持契約 により非開示	基礎研究 旭化成ファーマと共同研究開発 北京泰徳製薬と共同研究開発
AS-013	末梢血管病変	第Ⅱ相臨床試験終了 北京泰徳製薬へライセンス済
NSAID (LT-0201) [DR研究]	炎症性疾患	基礎研究
癌幹細胞分化誘導剤 (LT-0301) [DR研究]	癌	基礎研究

ステルス型ナノ粒子PGE1製剤

- ✓ 2010年7月NEDO助成事業に採択
- ✓ 慶応大学との提携による基礎研究推進
- ✓ PGE1以外の製剤への応用を推進し、共同研究先企業を探索

ドラッグリプロファイリング(DR)研究

既存医薬品に潜在する適応症以外の病気への薬効を探索し明らかにした上で、新たな医薬品として確立することを目指す手法。

- ✓ DDSと並ぶコア技術として確立を目指す
- ✓ 安全かつ早期に安価で開発が可能
- ✓ 基礎研究及び特許出願を推進
- ✓ 今後も様々な疾患の治療薬を開発

財務データ

連結損益計算書 単位: 百万円

科目	第9期 2010.4.1~ 2011.3.31	第10期 2011.4.1~ 2012.3.31
売上高	102	61
創薬事業	40	61
EIP事業	62	-
研究開発費	400	353
その他の販売費及び 一般管理費	241	165
営業損失(△)	△611	△458
営業外損益	365	393
経常損失(△)	△245	△65
特別損失(△)	△191	-
当期純損失(△)	△438	△66

■ 売上高

- ✓ PC-SOD(吸入製剤)のライセンスアウトによる一時金収入
- ✓ EIP事業は2011年3月末で営業を停止したため売上はゼロ

■ 研究開発費

- ✓ PC-SOD(吸入製剤)の開発進展に伴う研究開発費は引き続き高水準
- ✓ ステルス型ナノ粒子PGE1製剤の研究費計上

■ 営業外損益

- ✓ PC-SOD(吸入製剤)およびステルス型ナノ粒子PGE1製剤への助成金収入
- ✓ 北京泰徳製薬からの配当金収入

■ 特別損失

- ✓ 前期は無形固定資産等の減損処理及びEIP事業の営業停止に伴う減損処理により191百万円の損失を計上

財務データ

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	第9期 2011.3.31現在	第10期 2012.3.31現在
流動資産	856	759
現金及び預金	786	735
固定資産	59	58
有形固定資産	5	3
投資その他の資産	54	54
資産合計	915	818
負債合計	48	15
純資産合計	867	802
株主資本	871	805

※第10期は子会社マシンパーツ販売を会社清算したため、実績数値は単体決算のものを掲載しております。

■ 流動資産

- ✓ 現金及び預金として735百万円を保有
- ✓ 自己資本のほとんどを現金及び預金で保有

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	第9期 2010.4.1~ 2011.3.31	第10期 2011.4.1~ 2012.3.31
営業活動による キャッシュ・フロー	△74	△58
投資活動による キャッシュ・フロー	293	7
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	219	△50
現金及び現金同等物の 期首残高	567	786
現金及び現金同等物の 期末残高	786	735

■ 現金及び現金同等物の期末残高

- ✓ 現時点で2~3年程度の研究開発が継続可能な手元資金を保有

第11期業績予想

単位:百万円

科目	第11期 2012.4.1~ 2013.3.31
売上高	64
営業利益	△516
経常利益	△92
当期純利益	△93

POINT 1

■ 売上高

- ✓ PC-SOD(吸入製剤)の一時金収入等により64百万円を見込む

POINT 2

■ 費用

- ✓ PC-SOD(吸入製剤)の第Ⅱ相臨床試験実施費用を中心に研究開発に関する委託費および管理費等で581百万円程度の計上を見込む

POINT 3

■ 営業外収益

- ✓ 北京泰徳製薬配当金および公的助成金の収入等により424百万円程度の営業外収入を見込む

■ 利益

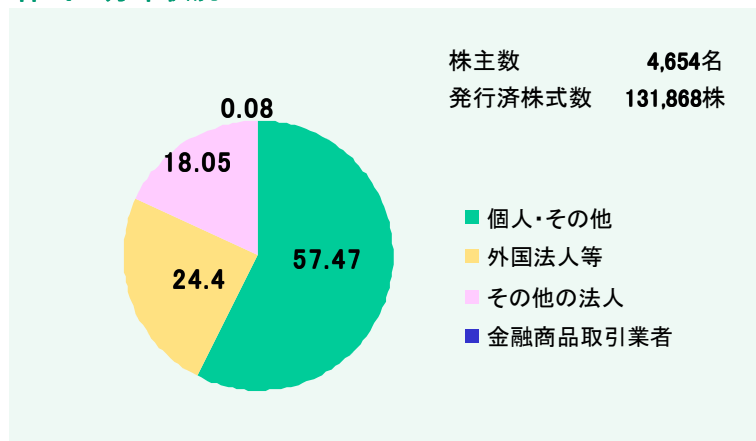
- ✓ 当期純利益で△93百万円程度を見込む

株式の状況

大株主の状況

氏名または名称	所有株式数	所有割合
北京泰徳製薬股份有限公司	25,320	19.20%
(株)水島コーポレーション	23,375	17.72%
外国法人	6,500	4.92%
個人	4,044	3.06%
個人	2,897	2.19%
個人	2,651	2.01%
個人	2,535	1.92%
個人	2,354	1.78%
個人	2,200	1.66%
個人	1,670	1.26%

株式の分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〈お問合せ〉 0120-232-711 〈各種手続用紙のご請求〉 東京 0120-244-479 大阪 0120-684-479 〈お手続き〉 三菱UFJ信託銀行 本店・各支店

公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ltt.co.jp ※ただし、電子公告によることができない 事故、その他やむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に公告いたします。
-------	--